

CROSS POINT

INFORMATION

2022年度第35回ヴェリタス祭および 聖学院大学同窓会通常総会のご案内

新型コロナウイルス感染症で影響を受けられた皆様に謹んでお見舞い申し上げます。
我々同窓会は同窓生と在学生・母校の更なる飛躍のため
学校・政府等の発表するガイドラインを遵守し活動を続けて参ります。
どうぞよろしくお願い致します。

第35回ヴェリタス祭は、2022年11月2日(水)、3日(木)の両日、3年ぶりの対面開催を予定しております。9月6日の段階では、聖学院大学敷地内への入場制限は設けられておりません。対面開催時、同窓会では、11月3日(木)に2号館4階にてティールームを開設いたしますので、ぜひお立ち寄りください。

※新型コロナウイルス感染状況によっては内容及び取り扱いを変更する場合があります。
ご来校前に大学HPのご確認をお願いいたします。

詳細につきましては
こちらをご覧ください

<https://www.seigakuin.jp/news/info/20220909/>



聖学院大学同窓会通常総会につきましては新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から紙面開催と致します。事業報告・事業計画、決算報告等につきましては11月末まで聖学院大学同窓会HPにてパスワード付きでファイル閲覧可能に致しますのでそちらをご確認ください。

※パスワードは本誌中面(最終ページ)に記載されています。

ご住所を変更される場合には同窓会ホームページにて変更手続きをお願いいたします。



聖学院大学同窓会会報誌『クロスポイント』第32号

令和4年10月13日発行

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1-1 聖学院大学同窓会事務局

E-mail dousou@seigakuin-univ.ac.jp

URL <https://www.seig-dousou.com/>



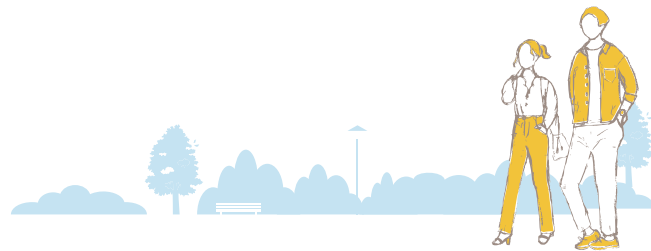
Cross Talk

座談会

第35回
ヴェリタス祭実行委員 × 島田会長・鈴木副会長

～第35回ヴェリタス祭実行委員を迎えて～

**3年ぶりの対面開催に向け、
目下無我夢中で邁進中。**



～第35回ヴェリタス祭実行委員を迎えて～

3年ぶりの対面開催に向け、 目下無我夢中で邁進中。

新型コロナウイルス感染症が蔓延した2020年以降、ヴェリタス祭は2度にわたり、オンライン開催となりました。コロナ下で迎える3度目のヴェリタス祭はどうなることやら。そこで今年の実行委員3名に参集いただき、現在の状況を伺ってみました。

*インタビュー中は「コロナ」と略した表現を用いています。
この対談は2022年8月4日に行われました。



第35回ヴェリタス祭実行委員会

実行委員長 近藤 飛大 人文学部日本文化学科4年
副委員長 小荒井 遙 政治経済学部政治経済学科4年
会計課課長 阿部 悠月 人文学部欧米文化学科3年

聖学院大学同窓会

会長 島田 大輔(101)
副会長(会務担当) 鈴木 雄亮(107)

Guest X Host

§ 1. まずは自己紹介から

島田 今日はよろしくお願いたします。各自自己紹介から改めて始めさせていただきますと思います。私、聖学院大学同窓会 会長の島田と申します。卒業は2005年になります。

鈴木 同じく副会長の鈴木と申します。卒業は2011年3月です。東日本大震災があった翌週に卒業式が予定されていたのですが、あのような状況だったので実施できず、区切りがよくわからないまま社会人になって、もう11年です。忘れられない年です。

阿部 ヴェリタス祭実行委員会 会計課の課長を担当しております欧米文化学科3年の阿部悠月です。よろしくお願いたします。

近藤 委員長の日本文化学科4年の近藤飛大です。お願いたします。

小荒井 副委員長の政治経済学科4年の小荒井遙と申します。

§ 2. 今年のテーマ

島田 今年のヴェリタス祭のテーマはどのようなものになっていますか。

近藤 第35回のヴェリタス祭では「遊園地」というテーマを設けて準備を進めています。例年だとタイトルを決めてからサブタイトルを付けているのですが、自分が入学した2019年から見てみると、タイトルやサブタイトルを感じられる部分がありませんでした。また一昨年と昨年はオンライン開催だったので学内生も対面開催のヴェリ

タス祭を知らないという状況が続いたことから、よりヴェリタス祭の完成のイメージをしやすいう、わかりやすく「遊園地」としました。

鈴木 遊園地って、大人が聞いてもとても楽しそうなテーマですね。

島田 アトラクションのような企画があるのでしょうか。

近藤 例年だと、ヴェリタス祭のメインステージ上で学生が企画したものが行われるのですが、今年度は外部の業者さんに依頼して、空き教室を利用したアトラクションや体験できるコーナーを設けることができればと思っています。

§ 3. 目玉企画

島田 今年の目玉みたいなものはありますか。例年、お笑い芸人さんや呼んだり、有名人を招いたりするケースが多いと思いますが。

近藤 オンライン開催が2年続いてしまったので、学内の部とかサークルの人が発表する機会がかなり少なくなってしまい、1年間を通して何もできなかったという団体もあったことから、団体が発表する機会を提供する、というのが一番の目玉かなと思っています。

阿部 会計は企画のことに口出しすることはないのですが、2年間のブランクがあったため、今回参加してくれる団体には初々しさがあるので、このあたりは結構目玉になってくるのではないかと思います。

小荒井 このご時世、1箇所に人が集まってしまうのは、こちら側としても避けたい状況なので、色々な場所でそれぞれの見どころを作れたら、と思っています。例えば室内でダンス部さんが発表している間に、軽音部さんに屋外で演奏してもらったりとか、そういった形で、来場してくださった方が一番面白かったというものが一つではなかったとしても、最後にそう言って帰ってもらえるのがいいかなと思っています。

鈴木 大学に限らず高校や中学などでも大会が中止になったり、発表できる場がかなり減ったりしていますよね。社会人でもそうだと思うのですが、何か活動している人達や部活の人達にとっては、もってこいと言うか、うってつけの場だと思うので、対面開催ができれば我々も楽しみにしたいかなと思っています。

島田 ヴェリタス祭に来る高校生って、来年受験を控えていて、聖学院大学が受験の候補に挙がっていることもあると思うので、うまく学内のアピール的なものができればいいですね。そこでうまく部活のアピールができれば、来年それを目的に新入生が入ってきてくれる可能性もあるかもしれません。



鈴木 今日(8月4日)はちょうどオープンキャンパスを実施していますが、こういう授業をやっているよ、こういう建物でこういう雰囲気だよというのは、キャンパスツアーである程度は感じることができると思うのです。でも、案内している学生はほんの一部なので、深いところまではわからないですね。そういった意味でもやはりヴェリタス祭は学生の活動を知る良い機会になるのではないかと思います。

§ 4. 参加団体の状況

島田 今回、文化会連合や体育会連合などに所属する各部活から、アピールのために教室を使いたいなどの要望はあったのでしょうか。

近藤 参加団体に向けた説明会を春学期中に4回ほど開催しています。第1回目の説明会を行ってから今の段階で、20団体は参加を表明しているので、現在それぞれの団体と話を進めています。体育会連合だったり文化会連合だったり、様々なジャンルの団体からの応募があったので、2019年までにやってきた姿に少しは近づけているのかなと思っています。



鈴木 この2年間はオンライン開催だったのであまり比較できませんが、対面開催だった2019年と比べて、20団体というのはいかがでしょうか。

近藤 2019年は約30団体が参加していたそうです。中には今回、一旦は参加を検討したものの、やはり対面開催を経験したのが4年生だけしかおらず、今年は様子を見ておこうか、という団体も少々見受けられました。多くの団体は基本的に3年生が中心となって運営をしていることが多いのですが、どうすればヴェリタス祭に参加できるかというところについて、こちら側からできるだけ上手に伝えられるよう努力しています。今のところ20団体が頑張っついてきてくれるので、ありがたい感じです。

鈴木 本当は参加したいという思いを持っている団体が、背後にはもっと存在するわけですね。そうすると、今後もう少し参加団体は増える可能性があるということでしょうか。

近藤 そうですね。増える可能性はあると思います。

鈴木 この状況下でそれだけの数があるということはいいことですね。みんなで盛り上げていって欲しいです。

§ 5. 対面開催に向けて

島田 3年ぶりに対面開催ということで、今までオンラインでやってきたところとは準備の仕方が変わってくると思います。苦労されてい

ることはあります。

阿部 3年生は対面開催を1回も経験していないので、その場じゃないと味わえない雰囲気は、写真とともに説明を受けても感じ取ることが難しいです。オンライン開催ではお客さまの前ではなかったのでラフな感じでできていたのですが、今回は外部のお客さまやこれから大学に入ってきてくれる可能性のある子どもたちもいるので、オンラインよりも気を引きしめて挑まないといけない。実際オンライン開催の時よりも緊張しています。



小荒井 自分は1年生の頃に対面でヴェリタス祭を経験したので、雰囲気はわかっているつもりなのですが、さすがに3年も前となると記憶が薄れてきてしまっていて、後輩たちに聞かれた時、うまく言葉にしづらいところが多々あります。今までは、昨年通りにやっていこうと話していたことも、段々通じなくなってきました。本当は面と向かって色々話して教えたり、綿密な連絡をとったりしたい気持ちはあるのですが、いろいろと活動にも制限があり、さらには関係者に感染者が増えてきているということもあって、頻繁に会うこともできない状況となってしまいました。

鈴木 難しいですよ。あの雰囲気を言葉で伝えろと言われてたら私も無理です。

小荒井 とっても濃い経験なので、実際に運営してみるとすごく楽しいこともあるのですが、それをどう表現して伝えれば良いのだろうみたいな、ちょっと困ってしまうことはあります。

鈴木 職人さんじゃないけど、肌で感じろとか、背中を見ろとか、うまく言えないですね。

小荒井 今年経験してもらえれば、みんなもわかるだろうと思うので、この1年、がんばりましょう。

近藤 コロナ禍で活動に制限がかかっている中で、後輩とコミュニケーションがとりにくいと感じています。自分が知っているヴェリタス祭実行委員会室は、先輩とか後輩とかが空き時間に来てワイワイ話している、いわばコミュニケーションの場、つながりの場だったのですが、お互いに感染しないようにという配慮から、あまり集まるのができずにいます。昨年や一昨年は、ほとんど直接顔を合わせずにオンライン会議をしていたので、今年はそれでもまだマンな方ではあるのですが、まだまだ2019年までのような活気は取り戻せていないのかなとは思っています。さきほど小荒井が言ってくれたのですが、2019年の対面開催の経験が1回あるとは言え、僕自身1年生だったのでヴェリタス祭の一部しか知らない。知らないことは先輩にお訊ねするのですが、先輩もちろんお忙しいので、なかなかすぐにレスポンスが来るわけでもなく、そういう情報の少なさには今ちょっと苦戦しているところです。結果として上に立つ委員長自身が知らないことも多く、後輩の質問にすぐ返してあげられないのは少し悔しいなと、感じています。

小荒井 食品の取り扱いとかもそうですね。

近藤 団体さんが模擬店を出したいと言っても、調理の制限が厳しく、また衛生管理に加えコロナ感染対策が大変なので、そこをなんとか団体さんにも理解してもらいながら進めており、そのやりとりとかも難しいです。

鈴木 我々同窓会も毎年豚汁を無料提供させていただいていたのですが、今年も見送りだよ、という話はしていて。やはりこの状況下だから、気を遣うところがいっぱいあるじゃないですか。それこそ人と会うのもそうだし、食品の取り扱いもそうだし、それ以外にも色々課題があるのですが、それらをクリアして是非やってもらいたいなと思っています。

§ 6. 大学側の姿勢

島田 ヴェリタス祭の活動や企画などを練っていく中で、学校側からの要望はありませんか。

近藤 2018年の大食い企画のような、体育会系というか、汗をかいてがっつり絡み合ったりするような企画は、制限があって難しいと思います。昨年や一昨年は、チャペル内では密集しないよう、いろいろ指示があったり指定があったりして、そこをクリアしていくのが大変でした。

島田 学校側からはなるべく密にならないようにして欲しいという要請があったのですね。兼ね合いというかバランスが難しいですね。

鈴木 ヴェリタス祭はそもそも人が集まるものですからね。

小荒井 人と人の間隔を開けてくださいと言われた時はちょっと厳しかったです。ステージ一杯に広がった状態をビデオカメラの画面に収めることができるのかなと、前日まで苦戦していました。

§ 7. オンライン開催の成果物

鈴木 この2年で2回のオンライン開催を経験しましたが、今回の対面開催で活かせる部分はありますか。

近藤 オンライン授業などでも使っているTeamsというアプリを実行委員会でも使っています。今までヴェリタス祭や総会などの会議は教室を借りなければできなかったのですが、自宅からオンラインで会議ができるようになったのは一番大きな成果かと思います。緊急時にもTeamsを使って会議ができるので、画期的だと思います。



鈴木 逆にこの時代だったから良かったのかもしれないですね。私自身も13年前にヴェリタス祭の実行委員長をやりましたが、当時はそこまで発達していませんでした。iPhoneなどのスマホがようやく出てきた時期で、多くはまだガラケーでした。テレビ電話なんて未来の話でした。使えるものはどんどん使って便利にやっていったらいいと思います。オンライン会議なんて発想もなかった。YouTubeは見るだけのものでしたから、配信するなんて考えもしなかったです。

島田 YouTubeの話が出ましたが、ヴェリタス祭の本番で活かせるような場面はありますか。例えばリアルとバーチャルを並行してやるような。

近藤 まだ構想段階なのですが、キャンパスに設営しているメインステージだけは、ヴェリタス祭YouTubeのアカウントでライブ配信

ができるように準備を進めています。来場しなかったけれども感染が心配という方にはYouTube上でヴェリタス祭の空気を感じていただければと思っています。

鈴木 YouTubeの配信も自分たちですべてやっているのですか。

近藤 従来は業者さんに依頼して、本格的なテレビ配信のように、ステージの横に大きな配信機材を設営し、カメラも3、4台を配置するなどして、配信してもらいました。



§ 8. 芸能人との接点

鈴木 昨年のステージ企画だった声優の松本梨香さんのライブ&トークショーのところだけ、YouTubeのライブ配信を見ました。ポケモン世代なので、結構いいタイミングで画面が切り替わっていた記憶があって、自分たちで配信しているとしたらすごいな、と思っていました。業者さんが入っていたのですね。

近藤 映像系の会社の人にお手伝いをお願いしました。今年は昨年のように本格的な配信を行うことはできませんが、自分たちができる範囲で行えたらと思っています。

鈴木 先日、松本梨香さんとお話する機会があって、「来てくださってありがとうございました」とお伝えしたら、「いい所でした。ちょっと旅行感覚で楽しかったです」と、あのままの方でした。

近藤 本番や準備段階から楽屋にいるときもマネージャーやスタッフを引っ張っていくような感じで、元気な方だった印象があります。

鈴木 ピカチュウは来てくれなかったですね(笑)。

近藤 そういった芸能界の方と関わりを持てるのも実行委員会のいいところかなと思います。

鈴木 芸能界の方とお話する機会はなかなかないですからね。

小荒井 芸能界の方を接待したり楽屋を自分たちで作ったりなど、なかなかできない経験でした。

鈴木 特権ですね。

島田 そういう方を接待する経験は卒業後に絶対役に立ちます。

近藤 芸能界の方を招待する際には、ヴェリタス祭実行委員からメールを送りますので、そういう経験も今のうちに慣れておいた方

が将来役に立つのかなと思います。

§ 9. 実行委員の利点

島田 今は社会に出ると、あらゆることをメールでやり取りするので、メールの打ち方など学生のうちに覚えておくと思いいます。

鈴木 スタートダッシュじゃないけど知らないより知っている方がね。全然良いです。

島田 接待の仕方も、大人になってから学ぶのはなかなか難しいです。

鈴木 経験があった方が絶対良いです。接待される方が「いいな、気を遣ってるな」と感じ取ってくださるはずです。

§ 10. 新しい形

島田 今後は、リアルとオンラインを並行してやっていくような形が普通になるのでしょうか。

近藤 今年実験的にうまくいけば、来年も引き継いでいきたいなと思っています。

島田 今まではリアルだけでやっていたが、今後はリアルとバーチャルを並行してやることになるかもしれない。新しい形というか、今までの形は一旦リセットがかかったと……。

近藤 そうですね、4年生以外リアル開催のヴェリタス祭を知らないのです、この際、今まで付いていたタイトルやサブタイトルを取り払うなど、全く新しい挑戦をしていきたいなと思っています。

島田 まさに「新しい形」ですね。

鈴木 長く続けていると、前回もこうだったからそれでいいんじゃない、みたいな考えが頭の片隅に浮かびがちですが、強制的に形が変わるとなると、そういうのもなくなります。大人になるとより頭が固くなってしまうので、こういう経験はきっとこれからの皆さんの役に立つと思います。



§ 11. コロナ禍での対応方針

島田 先月(7月)の時点でこんな一気にコロナ感染者が増加するとは想像がつかなかったですね。ヴェリタス祭の頃には落ち着いてくれるとよいのですが、心配です。

鈴木 ご友人のなかでコロナに感染し発症された方はいますか。

近藤 今回の第7波では幹部陣たちからも感染者が出ました。より感染対策を徹底しなければと思いました。

小荒井 授業を受けている友人やバイト先からも、ちらほら出てきました。

島田 私の周りでもちらほら出てきてまして、今までより感染を身近に感じるようになりました。今後の感染状況によっては、学生のみで開催となる場合もありえますでしょうか。

近藤 現段階での学生支援課との擦り合わせでは、外部のお客さまを入れて開催するという方針は承認されていますが、第7波が長引けば学生だけになってしまう可能性もあると思います。

島田 最悪オンラインの配信だけ、というケースもあるのでしょうか。

近藤 学生支援課との間では、オンライン配信だけにはしない、という方向で合意しています。何故かという、現時点で対面開催を経験しているのが4年生だけなので、ここで対面形式をリハーサルだけでも経験しておかないと、来年以降の対面形式でのヴェリタス祭開催が厳しくなることが予想されるため、リハーサルだけでもやりたいと思っています。

島田 対面形式を知っているのは委員長と副委員長だけです。確かにここで引き継ぎをしておかないと……。卒業された後では難しいですね。

鈴木 ある意味、背に腹は代えられない状況ですね。



島田 実際、感染者がこれだけ増えていても行動制限はないのですから、今はしっかり感染対策をして、やるなら自己責任で、ということですね。学校に限らず世間一般がもう限界のところまで来ているのかなと思います。

§ 12. 学生生活

島田 コロナ前と比べて学生生活で変わったことがありますか。

近藤 全然違います。たとえば4号館の食堂の机には仕切られたパーティションがあるのですが、以前はとても混雑しているイメージがありました。食券売り場にずらりと人が並んでいました。

小荒井 食堂では大人数でワイワイ騒いでいる学生がいなくなっ



しまい、それぞれが距離をおいている感じです。

近藤 1、2人で食事している人が多くなりました。1年生の時は4、5人で食べていたのですが、この2年間のうち、半分くらいがオンライン授業でしたので、友達を作る環境や出会いの場が無くなってしまいました。阿部君は幸い実行委員会に入ったので、知り合いが増えたのではないですか。

阿部 そうですね。

近藤 そういう点で実行委員会は友人、そして大学との接点がある場所でもあると思います。入っていて良かったとすごく思います。

阿部 コロナ禍でコミュニケーションを失いたくないという理由から、実行委員の人数が増えたということもあります。何かに所属して友達を作りたい、という理由で62人にも増えました。

鈴木 友達を作るのにはもってこいですね。今は、授業は対面ですか。

阿部 9割方対面ではオンラインです。動画を視聴してレポートを作成したりする授業もあります。

近藤 コロナ禍が始まった頃は、朝から晩まで授業があってもオンラインばかりでした。一日中家にいて、特に私の場合一人暮らしでしたから、月日が経つにつれて、どんどん寂しくなりましたが、幸い実行委員同士で人と話したりすることができたので救われました。ホント、ヴェリに入って良かったと思います。

島田 コロナが猛威を振るっていた頃というのは、オンライン授業ばかりだったんですね。

阿部 学校に来ないでください、と言われる程でした。

島田 エルピス食堂や4号館の食堂は、パーティションでしっかり仕切られてしまいましたね。

鈴木 久々に見て、自分の知っている景色ではありませんでした。私が記憶している4号館の食堂は、券売機の裏のところの入り口にカードゲームのデュエリストたちが集まっていた、という光景です。

近藤 2019年にはいましたね。

鈴木 それが見られないのがちょっと悲しいです。

近藤 コロナ禍前はコンビニのホットスナックを自分で取ってレジに持っていくというのが普通だったのですが、それができなくなってしまい、辺りはガラーンとしています。

島田 私たちのときは、4号館に行けば誰かしら居たものです。

鈴木 暇なときは、あそこに行ってタバコを吸うか、ご飯食べて、誰かと話しました。今はタバコも吸えませんね。

島田 食堂が交流の場になっていたということは事実です。今それができないっていうのはかなり大きいですね。

§ 13. 恋愛事情

鈴木 コロナ下の大学生の恋愛事情をお聞かせ下さい。

阿部 パス! (笑) 会おう場というより、そもそも友達と話す機会も少ないので、そこで出会いを求めるというのは厳しいです。

鈴木 ちなみに今、この御三方でお付き合いをされている方はいらっしゃいますか。

近藤 (挙手) 私だけ?

鈴木 コロナの前、それとも後ですか。

近藤 コロナ下では早めに出会っておかないと、と思いついて。ヴェリがなければ異性に接する機会も空間もありません。対面の授業すらなかったのも、そもそも会わないみたいな。そういう傾向は今も続いています。

島田 確かに会おうきっかけすらないわけですね。そういう意味では、なにかしらの団体に属するっていうのは、大切なことなのかもしれませんね。

鈴木 お二人とも頑張ってください。

3名 (笑)

鈴木 久々に大学に来る道すがら、カップルで並んで歩く、駅に向かって歩くすれ違う人たちがいらして、自分も学生時代にちゃんと

恋愛しておけば良かったと、ちょっと後悔しました。みんなはまだ時間がありますね。

阿部 あと1年あります。頑張ります。

島田・鈴木 頑張って！

島田 出かける機会がありますか。

近藤 わりと出歩きやすくなりました。

阿部 私はなるべく人が多いところとかは避けるようにしています。お店に行くにしてもなるべく個室があれば個室にしていますし、知らない人と距離が近い場所、というのはまだ怖いところもあります。食べ物はなるべく持ち帰って、家で食べたりしています。

近藤 2019年の頃はヴェリタス祭実行委員会の活動後、後輩を連れてご飯に行くことが、ちょくちょくあったのですが、今は誘いづらい部分もあり、いっしょに行けなかったりします。実行委員会としてはみんなで飲みに行ってみたいのですが、まだできないですね。

島田 それが醍醐味ですよ。

近藤 そのような機会がなくなってしまっただけ残念ですね。

§ 14. コロナ禍の余波

鈴木 今日のインタビューに参加するのにも、ちょっと勇気がいりましたか。

阿部 今日に関して言えばそこまで人数が多くないと聞いていたの、何の気兼ねもなく来ることができましたけれども、今の状況下でヴェリタス祭が始まってしまうと心配になると思います。

島田 意識的に変わった部分はありますか。

近藤 個人的にはだいぶ変化はあったと思います。コロナに感染する人が減ってくれた方がいいと心底思っています。



島田 これがずっと続いてしまうと味気ない学校生活になってしまいますね。食堂に無駄に集まるというのも楽しみではありますからね。

鈴木 普段の日に友達と飲みに行くというのはやっぱり楽しかったです。吐くほど飲んで、電車の中に携帯忘れてとか財布落としてと

か。いい思い出になるのですが。

§ 15. アルバイト

島田 バイト事情はいかがですか。

近藤 自分は一人暮らしで仕送りしてもらっていますが、それだけですと金銭面的に苦しいので飲食店でバイトをしています。自分は基本的に料理を作る厨房に入っていますが、割と客席と近いので少し怖いなと感じています。実行委員の仲間を感染させないかという不安がありつつも、働かなければいけないので。

島田 シフト勤務に影響はありましたか。

近藤 自分は割としっかり働くタイプだったので、店長にシフトを優先的に入れていただけました。おかげさまで3割減くらいに止まっています。お客さまの数も減ってしまい、半分程度になってしまった時もあります。店にはだいぶ打撃はあったのかなと思います。

阿部 私は体を動かす系の仕事と飲食店とを掛け持ちしています。体を動かす方に関してはマスクをしながら体を動かしたりしないといけないので結構辛いです。飲食店の方は、シフトを減らされ、時短もあったので、給料はだいぶ落ちました。

小荒井 僕は駅の駅弁屋さんに働いています。みなさんと違って家で食べるお客さん相手ですので、逆に繁盛するようになりました。シフトを優遇していただけましたし、お給料が減ることもなく。時短はありました。1時間早く店を閉めたりするなど。

鈴木 同じ飲食でも業態が違うと全然違うのですね。

近藤 時短営業は影響ありますね。午前3時まで開いている店で働いているのですが、そこまで開けることができないので、夜の締め作業の一部を昼間で対処するというようなことがありました。

鈴木 時短が始まったころは真っ暗で。

島田 帰り道、あちこち点いていた電気が真っ暗で、物寂しさを感じましたね。給料が下がって、生活に影響はありませんでしたか。

近藤 自分の場合、割と家にいたので、出費するのを抑えてほぼ食費みたいな感じになっていたんで、どっこいどっこいという感じでした。

小荒井 時短分を国に申請すれば、その分の補助が得られました。時間はかかりますが、何ヶ月後には時短の分を貰えたのでありがたかったです。

近藤 我々は恵まれている方かもしれません。

島田 僕は介護系の仕事をしています。在宅介護はコロナ禍でも家に行かなければいけないのですが、逆に来ないでくれて言われることがありました。介護ベッドや車椅子を貸し出す仕事で、ご利用者さまのお宅には半年に1回メンテナンスに行かなければいけません。が、こういう状況だから来ないと言われて1年以上行けなかったケースもあります。そういう意味では結構仕事に影響があります。

鈴木 私は自販機に飲料品を補充する仕事に就いています。コロナ禍では人と会わずに物が買えることから売り上げが伸びています。しかしゴミ箱の中身も回収する必要があり、そこにはマスクが大量に捨てられているのです。よく発症しなかったと思うほどでした。この夏の売り上げはかなりになりまして、公園の前に設置している自販機など売り切れランプで真っ赤になるなど、正直朝起きるのが嫌になるくらい大変です。



§ 16. 猛暑の影響

島田 厳しい暑さは活動に影響ありませんか。

近藤 実行委員会には8つの課があり、その中でヴェリタス祭の倉庫を整理する管理課はエアコンのない倉庫で作業をしています。窓を開けることはできるのですが、風も入りづらい場所に建っていることもあり水分を取るように常に注意を払っています。9月には、調整池側のメインステージの大きさを確認したり、リハーサルを行ったりすることになりますが、この暑さがもう少し収まってくれることを祈っています。

§ 17. 対面開催に向けての抱負

島田 最後に3年ぶりの対面開催にあたっての意気込みをお聞かせください。

阿部 我々 3年生は対面を1回も関わることもできないでいましたので、正直わからないことだらけで不安でしかありません。しかし4年生がまだ頼れる存在なので頼って頼って頼って頼りまくって、来年は、私たちが中心になって引っ張っていけるように、今年を踏み台にして、来年のために頑張りたいと思います。

鈴木 順調にステップを踏めたら良いですね。

小荒井 実行委員を4年間続ける中で、対面開催とオンライン開催の2通りの開催方法を経験している身なので、それを取り入れた新しいヴェリタス祭を創っていければと思います。自分たちの持てる知識を後輩たちに投げて投げて、古い型を壊してどんどん新しいものを創っていく。そして後輩たちだけでもできるよう自分たちが役に立てればと、私個人は思っています。

島田 締めをお願いします。

近藤 3年ぶりの対面開催ということで、4年生の多くは「復活」というイメージがあると思います。3年生以下の学生は初めての挑戦になり、特別なヴェリタス祭になるものと思います。個人的にはいろんな

思いがあり、部やサークルの宣伝の場になって欲しいという気持ちだったり、実行委員のみなさんには、対面開催だった2019年のヴェリタス祭の雰囲気を感じとってもらい、これを来年に引き継いでもらいたいという気持ちとか、聖学院の良い文化を引き継ぎたいという気持ち、そしてその責任を毎日感じながら活動しています。なんとかコロナが収まって、ヴェリタス祭に来ていただいた先輩に、懐かしさだったり新しさだったりを感じてもらえるように仕上げていきたいと思っています。

鈴木 最後のヴェリタス祭になるということで、いろいろ伝えなきゃという思いはあっても、きっと全部は伝えきれないのだと思います。だから卒業後も頻度は少なくともずっと寄り添って欲しいと思います。そういうことができる関係性を築いているから大丈夫です。

島田 本日は長時間にわたりありがとうございました。無事対面開催できるよう祈っておりますし、我々の方も協力できることはしたいと思っていますので是非是非がんばってください。

一同 ありがとうございました！



Veritas Information

11月2日(水)、11月3日(木)開催

**第35回ヴェリタス祭テーマ
「遊園地」**

両日聖学院大学敷地内において、対面開催で行います。
北キャンパス調整池にて野外ステージを建設し、学生立案企画を行います。1号館、2号館、4号館内にて学内外参加団体による展示や物販などを行います。北キャンパス各所、南キャンパス図書館前にて学内外参加団体による模擬店の設置を予定しております。



**ヴェリタス祭の最新情報は
公式ツイッターアカウントにて
お知らせしております。
@SEIG_veritas**



最近の主な活動

2022年5月

北区滝野川会館にて役員による
集中会議を行いました。

例年は合宿という形で行っていましたが新型コロナウイルス感染症の拡大もあり、集中会議という形で1日のみ行いました。
約6時間という長丁場ではありましたが現状の確認と問題点、今後の活動方針について各役員と議論を交わす事ができました。



2022年6月

聖学院大学ボランティア活動支援センター主催の
「聖学院大学ボランティア・まちづくり活動助成事業」の
審査会に参加してきました。

聖学院大学で活動するボランティア団体が審査
会にて活動のプレゼンテーションを行い、活動費
の助成をするプログラムですが、同窓会ではその
支援金を拠出しております。昨年は新型コロナウ
イルス感染症の拡大もあり申請数が少なかった
ですが、今年は昨年と比べて申請数が増え、学内
の活動が活発化している印象を受けました。



聖学院大学同窓会役員募集

聖学院大学同窓会では活動にご協力いただける役員の募集を行っております。
活動内容は毎月行われる定例役員会(都内にて)、
年1回の定期総会の開催、会報誌の発行、ホームページの運営等があります。
活動にご興味のある方は下記アドレスにお名前、学籍番号、電話番号及び
メールアドレスを記入して送信いただけますでしょうか。
役員会の見学希望だけでも構いません。

聖学院大学同窓会メールアドレス

dousou@seigakuin-univ.ac.jp

(尚、お返事にお時間頂く場合がありますがご了承ください)



皆様のご参加を心よりお待ちしております



聖学院大学同窓会創立30周年記念イベント メンバー募集について

聖学院大学同窓会は2023年に30周年を迎えます。そして30周年
を迎えるにあたり記念イベントの開催を計画しており、協力してい
ただけるメンバーを募集します。

実行委員会を立ち上げる予定でありますので、ご興味のある方は
下記アドレスにお名前、学籍番号、電話番号及びメールアドレスを
記入して送信いただけますでしょうか。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

※新型コロナウイルスの感染状況によっては延期または中止になる可能性があります。

聖学院大学同窓会メールアドレス

dousou@seigakuin-univ.ac.jp

(尚、お返事にお時間頂く場合がありますがご了承ください)



過去の聖学院大学同窓会記念イベントの様子